

---

# 夏の思い出

坊

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

夏の思い出

### 【著者名】

N2103P

### 【作者名】

坊

### 【あらすじ】

「僕」の幼い頃の思い出です

最近まで忘れてたのだが昔僕には姉が居た  
たしか名前は夏田

まだ小さかった僕はなつお姉ちゃんって呼んでた

お姉ちゃんは僕とかなり年が離れていたけど  
いつも僕のことを可愛がってくれて

僕はそんな優しいなつお姉ちゃんが大好きだった

でも僕の両親は僕がお姉ちゃんと遊ぶのを酷くいやがった  
どうしてか理由を聞くと

お姉ちゃんが「人とは違つから  
とそう言つた

お姉ちゃんは生まれつき耳が聞こえないらしい  
だから喋ることもできないらしい

だからきっと両親はお姉ちゃんと話すのをいやがるんだと思つていた

僕も小さな頃言葉を覚えるのが遅く

当時片言しか喋れなかつたから

お姉ちゃんと会話をするのに困ることはなかつた

お互に手振りや視線を交じわすだけで

僕らの会話は成立していた

お姉ちゃんが時折見せる天使のような笑顔が僕は大好きだった

ある日僕が幼稚園から帰つてくると

飼っているハムスターが死んでいた

僕は死ぬといふことがどうゆう事かわからなくて  
「ほんすけどうじょうじょういかなくなつちやつたの?」

と母親に聞いた、すると母親は

「さあね、もう買つてあげないからね」

とだけ言つた

相変わらず死がどうゆう事がわからなかつたけど  
もうほんすけと遊べないんだと思つと

僕は急に悲しくなつてきた

悲しくなつた僕は母親の目を盗んで

お姉ちゃんの部屋に行つた

お姉ちゃんの部屋行くのを母親に強く禁じられていたので  
かなり勇気がいつたのを覚えてる

お姉ちゃんはほんすけを見ると

とても悲しそうな顔をして

一緒に庭についてくるようこと

身振りで僕に知らせた

お姉ちゃんは穴を掘つてほんすけを埋めようとしたので  
そんなことをしたらほんすけがかわいそうだと

と僕は思つたけど

お姉ちゃんがほんすけをいじめるはずがないので

僕は黙つて見ていた

穴の中にほんすけを置くとお姉ちゃんは  
ほんすけの大好物だつたひまわりの種を取り出し  
それを一つだけほんすけの上に乗せた

あつとほんすけのお腹が空かないようだと思つた

やつぱりお姉ちゃんはほんすけをいじめるはずなかつたんだ

その上に土をかぶせながらお姉ちゃんは泣いていた

その時僕は少しだけ死の意味がわかつた気がした

その夜お姉ちゃんは僕を一晩中抱きしめて一緒に泣いてくれた

次の日の田が覚めるとお母さんが怒っていた

僕が勝手にお姉ちゃんの部屋に入ったのがばれたからだ

お母さんはお父さんと一緒になつてお姉ちゃんを殴つた

僕はやめてくれ、やめてくれって思つたけど

まだあの頃に僕にはそれを止める力すらもなかつたんだ

僕はお姉ちゃんの手を取つて外に逃げることとした

後ろでお母さんが何か叫んでいたけど

僕は恐ろしくて振り返ることもできなかつた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2103p/>

---

夏の思い出

2010年11月29日08時49分発行